

わが国に理学療法士が誕生して 35 年が過ぎ、多岐にわたる分野で多くの構成員を抱え、あるいは異なった職種を配下におく、いわゆる上級管理者として部門の運営責任を担う理学療法士が増えている。この傾向が今後さらに続くことは明らかであろう。今回の特集では管理運営に直接焦点を当てた、科学的管理から見た医療組織の特殊性についてまとめていただき、また臨床もさることながら管理者として種々の分野で優れたリーダーシップを発揮している理学療法士の実践録を集めて紹介した。管理者の道を歩む方々に多くの示唆を提供できればと願っている。

■医療職場における管理と運営(信川益明論文)

医療機関の管理者は外部環境下において、管理プロセス(計画、組織化、人事、指導、統制)を用いて、インプットをアウトプットに変換し、組織の目標を達成するように意思決定を行う。多くの専門職により医療活動が行われている医療機関では、権限と責任、調整、委任に基づく経営管理組織の運営が不可欠である。医療機関の管理機能は、病院機能部分(収容機能、部門別機能)と医療機能部分に大別できる。部門管理組織であるリハビリテーション部門の運営・管理は、医療機関組織全体との整合性を考えながら行われるべきである。

■管理と運営の実践録(中屋久長論文)

私立総合学園が経営母体である複数学科を擁するセラピスト養成専門学校長として、教職員を目的の方向に向ける諸業務の管理・運営についての経験およびその方法を紹介した。本学院運営は法人の部門運営であり、全体の組織活動の一部であることの周知徹底、教職員の自己実現欲求を満たす職場の環境づくりと教育養成の理念・価値観の共有を図ることがその実践であると考えている。

■管理と運営の実践録(備酒伸彦論文)

本論では、①地域ケアという領域で、②様々な人々に対して、③色々な職種と交わりながら仕事をする理学療法士の立場から、①については「構成員のレベルアップ」を、②については「構成員のストレス管理」を、③については「他職種との連携」をキーワードにして、職場や職域の管理・運営について考える。

■管理と運営の実践録～私の永遠のテーマ“リーダーシップ”(半田一登論文)

今日の医療情勢(理学療法料の大幅な下落)にあつては、リーダーとしての理学療法士は社会保障システムを含めた今後の医療・保健・福祉の方向性を認識し、それぞれの職場の適性を高め、スタッフの生活を守ることがリーダーシップの一義であろう。追い風に乗っていればよかった時代から模索と決断の時代に突入した。

■管理と運営の実践録～草創期からの経験録(菅原巳代治論文)

28 年間現在の病院に勤務し、主任を 6 年間、技師長になって 20 年と大半を管理者として過ごしてきた。管理運営術というほどの経験ではないが、労務管理から人間関係やチャンスの取り込み方、管理者の責任、構成員の能力に関する捉え方について触れてみた。構成員に教わり、理解ある経営者に恵まれることも大切であることを述べた。

■管理と運営の実践録(田中 聡論文)

国立大学附属病院(特定機能病院)のリハビリテーション部門理学療法士管理者として部内管理運営について経験談を中心に述べた。近年国立大学を取り巻く環境は激変してきており、部門管理者はリーダーシップを発揮して部内をまとめ、時代の流れに対応していかなければならない。

■管理と運営の実践録(石橋晃仁論文)

新米管理職としての 1 年を振り返り、スタッフとの温度差を感じつつ、概念・言語・実践などを「共有すること」の重要性を改めて感じた。部門内の勉強会や院外研修、学生臨床実習の受け入れなどに対する実践や考え方、他職種との協業やストレス管理、人事考課などについて私見を述べる。